

8/5
日曜

宇宙線、見えたぞ

科学教室で親子ら歓声

柏・東葛テクノプラザ



子どもたちに科学への関心を高めてもらうため、柏市内の東葛テクノプラザは4日、東葛地域の小学校ら、6年生と保護者を対象にした恒例の「夏休み科学教室」を開いた。「目に見えないものを信じますか?」と題した実験では、簡単な装置を使って宇宙線放射線を観察。観察装置の中を宇宙線が通過するのを確認すると、親子から「見えたー」など歓声が上がった。

同プラザの夏休み科学教室は1999年から行われ、今回が11回目。柏、流山、松戸市など東葛地域から約65組の親子が参加する人気イベントとして定着し

ている。

今回は、東京大学物性研究所・秋山英文准教授の発光実験「銀座のネオンとホタルの光」、松江技術事務所・松江登久代表の工作実験「目に見えないものを信じますか?」、同プラザの施設見学を兼ねた実験「科学で遊ぼう!」の三つのプログラムを行った。

松江代表の工作実験では、プラスチックケースとアルコールを使った霧箱作りから開始。参加親子は、黒色の紙などをセットして、ドライアイスの上にプラスチックケースを設置すると、懐中電灯で光を当てて霧状のケース内の変化に目を凝らした。

霧の状態が安定してしばらく待つと、時折針のように細い線や、鉛筆ほどの太さの線などが突如出現。松江代表が「宇宙線が霧箱の中を通過した瞬間

だ」と説明すると、参加者らは驚いた様子で「初めて見た」「不思議だ」などと歓声を上げた。

同教室に参加した野田市立みずき小学校5年生の石塚遙さん(10)は、「宇宙線を観察できたのにはびっくりした。理科は大好きなので、来年も参加したい」などと話した。

同教室では、参加メンバーを入れ替えて、きょう5日も同じプログラムを実施する。